

■司会

お待たせいたしました。これより、女性が輝く TOKYO 懇話会、情報通信業編を開催いたします。冒頭、会議の公開についてご説明いたします。本日の会議の様子は、東京都のホームページ上でインターネット中継により配信されております。報道機関の皆さまは、懇話会の冒頭から終了まで取材が可能です。それでは、初めに小池百合子東京都知事よりごあいさつ申し上げます。

■小池知事

皆さん、こんにちは。年末の 1 番お忙しい時期ではないか、忘年会も含めまして、そういう時期にお集まりいただきありがとうございます。この懇話会というのは、まさしく東京の女性、働く女性、そして子育てをしている女性も、両方やってる女性も、みんな輝いてほしいなという思いで、そして実際に皆さんの声を聞いてみましょうということから始めました。今回は 3 回目になりまして、基本的に女性があまり多くない分野を選びまして、まずは建設業、それから 2 回目が運輸業、そして今回ということになります。情報通信業は女性が少ないと言っても、皆さんをはじめとかなり女性の方々が活躍しておられると思います。ぜひ皆さま方の忌憚のないご意見、そして、ここをこうすればもっと伸びるわよとかですね、そのような発想をぜひどんどん出していきたいと思います。特に皆さま方の分野は日進月歩で変わっていて、そして変化を遂げていて、そしてまたそれだけに、変化の多いところは男性も女性も関係なく活躍できる分野でもあろうかと思っております。伸びしろがあるという、その分野においての皆さま方が今後さらに活躍していただくために、輝いていただくために何をすべきなのか、率直なご意見をいただきたいと思っております。いつも治部さんには皆さんの声を引き出す役目を担っていただいて、ありがとうございます。今日もよろしくお願いを申し上げたいと思っております。ありがとうございます。

■司会

ありがとうございます。ここからの進行は、本日モデレーターを務めていただきます治部れんげさんにお願ひし、治部さんから本日のゲストの皆さまをご紹介いただきます。それではよろしくお願ひいたします。

■治部氏

座って失礼いたします。本日司会を務めさせていただきます、ジャーナリストの治部れんげと申します。どうぞよろしくお願ひいたします。私、東京都の男女平等参画推進の審議会の委員を務めさせていただいた流れで、こちらの女性が輝く TOKYO 懇話会を、第 1 回建設業、第 2 回運輸業ということで、女性の参画が少ない分野で活躍されている女性と知事の懇話会のモデレーターをさせていただいております。非常に興味深いなというふうに思いますのは、毎回やはり生の声をお聞きできるというところです。女性が少ないセクタ

一というと、さぞご苦勞をされて、もちろんご苦勞はあるんですけども、そういった中で働く面白みや醍醐味ですとか、どうやって皆さんがライフとワークをうまく統合されているかということに関して、知事もすごくご関心を払っていただいて、毎回ライブ感のあるやり取りをさせていただいております。また、このやり取りにつきまして、後ほど非常に充実したデータもお見せするんですけども、これは私自身がジャーナリストとして記事を書くときですとか、あとは講演などをする際にもご紹介しています。最近ですと新宿区の、この近くの新宿区立新宿中学校の生徒さんに男女平等の話をしたときに、やはり、こういったことをやってますよということをお見せしたら、すごく中学生の方がインパクトを感じてくださって、知事自らこういったことにコミットされているということは、非常に強いメッセージになってるなというふうに思いました。また、東京弁護士会の働き方改革プロジェクトチームというのがあって、そこでもこの懇話会のことをお話ししましたら、弁護士さんたちがこの都の調べたデータを見て非常に反省をされていて、自分たちももっと頑張らなきゃいけないなんて言うことをおっしゃっていました。なので、この懇話会の持っている発信力とかコンテンツ力って結構高いなというふうに思いますので、今日もとても楽しみにして、皆さまのお話を伺えたらと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

まず私のほうから、ご参加の皆さまをご紹介してまいりたいと思います。私の左側にいらっしゃいますのが、株式会社 NTT ドコモの増田恭子さんです。増田さんは、これまでに FOMA 端末の商用導入など、さまざまな業務をご経験されています。現在はプロダクト部第二商品企画のご担当で、ドコモから発売するスマートフォンに関する商品企画の業務に携わっていらっしゃいます。小学生のお子さんがお一人いらっしゃいます。増田さん、どうぞよろしくお願いたします。増田さんの向かいにいらっしゃるのが、和田幸子さんです。和田さんは起業家でいらっしゃいます。家事代行のマッチングプラットフォーム、株式会社タスカジの代表取締役でいらっしゃいます。タスカジを起業なさる前には、富士通株式会社のシステムエンジニアとしてご活躍されていました。そちらでは新規事業の開発などをご担当されていました。和田さんも小学生のお子さんが 1 人いらっしゃいます。和田さん、どうぞよろしくお願いたします。そして、こちらにいらっしゃるのが成井美香さんです。日本マイクロソフト株式会社にお勤めです。成井さんは、現在ではビックデータの分析ですとか、また AI とデータプラットフォームの営業をご担当されています。先ほど知事がおっしゃった、まさに日進月歩の分野でご活躍をされています。保育園のお子さんがお一人いらっしゃるというふうに伺っています。成井さん、どうぞよろしくお願いたします。そして、こちらにいらっしゃいますのが藤川結季さんです。藤川さんは株式会社 DSB 情報システムにお勤めでいらっしゃいます。システムの開発業務を経て、現在は人材開発の業務をご担当されています。そして今年の 10 月から、藤川さまも AI に関するプロジェクトを兼務でされています。藤川さまはお子さんが 3 人いらっしゃいます。中学生、小学生と保育園のお子さんを育てながらお仕事をされているということです。藤川

さん、どうぞよろしくお願ひいたします。

では、まず最初に、情報通信業における女性活躍の現状のマクロデータを見ていきたいと思ひます。皆さま、お手元の端末、もしくはデータをご覧ください。知事から最初にお話がありましたように、この懇話会は特に女性が少ないセクターを取り上げてやっているんですけれども、情報通信業に関していいますと、ご覧いただひてお分りのとおり、携わっている女性の数は21万1,000人。割合で見ますと3割をちょっと欠けるぐらいの方が、女性がいらっしゃるといふことが分かります。特に情報通信業といひましても、お仕事結構いろいろありますね。その中でも、今回は情報サービス業を取り上げているということになります。これご覧になっていただくと分かるんですけれども、同じITの企業といひましても、比較的事務に近いようなお仕事になってくると男女が半々になってくるんですけれども、エンジニアですとか、理系に近いようなお仕事になってくると、やはり女性が少なくなってくるということが一目でお分りいただひけるかなというふうに思ひます。とはいひえ、女性は増えています。皆さん、今日お集まりの方々も、このように女性が少ないとはいひえ増えていく、まさに産業が拡大していく中で、活躍の範囲が広がっていく中で、いろいろお仕事をされている方にお集まりいただひてると理解しております。

今、でも、このセクターが非常に注目されていて、人材が必要である、そして足りないということとはさまざまなデータからも分かっておりまして、やはり人材が不足している、特に大幅に不足しているという回答が増えています。また、やや不足しているという回答も増えておりまして、そういった中では、恐らく性別を問わず優秀な方には来てほしい、活躍してほしいというふうに、産業界のほうからのニーズも強いことが予想されます。それで恐らく、これ後ほど皆さまからも伺っていききたいと思うんですけれども、IT業界女性が少ない理由の1つとして、学科における、高等教育における専攻の問題というものもあるのかなというふうに思ひます。やはり理系の女性がまだ少ないということがあるということが、こういったデータからも分かります。ただ、こうやって見てみますと、女性の管理職の割合というのが、情報通信業で特に少ないという感じでもないということがお分りいただひけるかなと思ひます。恐らく実力主義ゆえに、男女問わず活躍している方もいらっしゃったりするということが、こういった図からもお分りいただひけるかなというふうに思ひます。

特に働き方に関しては、情報通信業界は進んでいると思ひます。今日もメインの話題として1つ扱いたいと思っておりますのがテレワークなんですけれども、テレワークに関しては恐らく今日ご登壇いただひている皆さまは、かなり当たり前に導入されていたり、ほかの業界と比べると先進的な取り組みがあるかと思ひますので、ぜひこの点、議論していきたいと思っております。恐らくこれまで第1回、第2回でやりました運輸業ですとか建設業と通信業界では相当状況が違っているかなということも知事もお感じになったと思うんですけれども、今のデータ等々をご覧になって、知事はどんな感想をお持ちになりましたでしょうか。

■小池知事

私 1 番関心あるのが、このテレワークということが日本の働き方を変える、さまざまな社会的課題を解決する 1 番の方法だと考えております。その意味では、皆さんのこの分野は、テレワークの導入比率がもうすでに高いというか、そのプログラムをビジネスの対象にしておられるのではないかと思います。その辺り、ぜひ使いこなしの現状などをお伝えいただければと思います。一方で、いろいろ営業とか、それぞれのお仕事の分野によって、また秘書課であるとか営業であったり、それから実際にプログラマーであったり違うとは思いますが、そういう中でいろいろなご苦労などをお聞かせいただければと思います。

■治部氏

ありがとうございます。続きましては、本日ご登壇の皆さまの中から、増田さまに最初にプレゼンテーションのご準備をしてきていただいております。ご自身のキャリアですとかご勤務先でのお取り組み、またライフワークバランスについてお話を伺えたらと思います。増田さま、どうぞよろしくお願いたします。

■増田氏

ただいまご紹介いただきました NTT ドコモの増田と申します。10 分程度お時間をいただきまして、私のキャリアストーリーですとか、こういうポイントがあったらもっといいんじゃないかなと私自身で感じてるところですとかをちょっとお話しさせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。まず自己紹介ですけれども、増田恭子と申します。年齢はちょうどこの間 40 歳になりました。住んでる場所は川崎市の北のほうになります。勤務地は東京になりますので、大体通勤時間 1 時間弱ぐらいを使って通っております。家族ですけれども、息子が 1 人、8 歳、小学校 2 年生の息子がおります。ちょっと家庭の事情がありまして、1 人で子供を育てているという状況になります。趣味はいろいろ、キャンプとか旅行とか、最近はサッカーにはまっていて、川崎フロンターレの応援にしょっちゅう行ったりしております。

ここからキャリアストーリーなどをお話ししたいと思うんですが、私がドコモを最初選んだ理由というところを、資料には書いてないですがお話しします。最初、就職活動をしているときに、一般の街を歩く人たちが使ってるものっていうところに何かしら携わりたいたいというのがあって、それは一般の消費財でもよかったですし、器械みたいなものでもよかったんですけれども、そういうところに興味があって、結果的にドコモを選びました。当時は FOMA、第三世代の FOMA 端末がちょうどサービスをスタートするところで、非常に技術の塊みたいなものの象徴的なものが FOMA 端末でしたので、そういうところにすごく興味があってドコモを選びました。今の業務は、先ほど治部さんからご紹介していただいたとおり、Android のスマートフォンの端末の企画ですとか開発業務みたいなところをやっ

おります。あと、ちょうど今 5G っていうところのキーワードもありますので、5G に向けて何をスマートフォンとしてやっていくかみたいなのところも検討してるテーマの 1 つになります。

私のキャリアストーリーなんですけれども、前半後半に分けてお話ししたいと思います。まずは前半、子供が生まれる前のところですね。最初入社したときは開発部、FOMA 端末の開発をする拠点に配属になりました。拠点は YRP という、横須賀のリサーチパークというところに配属になりまして、そこでちょうど立ち上げたばかりの FOMA 端末の商用開発というところをやっておりました。いくつかの技術の要素を担当するということと、あとはプロジェクト管理業務ということで、100 人規模のプロジェクトをまとめていくという業務をしておりました。それで、ちょうどこの写真の下のところにあるのが、当時私が担当した最初の端末で P2102V というパナソニックさんの携帯を最初に検討しました。テレビ電話ができる商用機として出したものになります。当時、この業務をしている中ですごく大事だなと思ったのは、直接足を運んで情報を得るという積極性みたいなところを、この開発の時代にすごく勉強をいたしました。開発の業務を 4 年ほどやったあとで、営業の部門に異動となりました。当時、開発から営業ってあまり会社の中のキャリアとしてはなかったんですけれども、いろんな業界が変わっていく中で、そういういろんな現場の感覚を知ることが大事だということで営業の業務に携わりました。全く業務は違うもので、東京にあるドコモショップのルート営業ということで業務をしておりまして、ドコモの代表として、いろいろな施策ですとか販売の目標みたいな話をドコモショップの方々にお話しするというような業務をこちらでしておりました。ここで非常に学んだのは、やっぱり自分 1 人だと分からないことっていうのが非常に多くて、バックヤードにいる専門部隊という方々が非常に多くおりましたので、そういうところに積極的に支援を頼むことで、チームとして業務をしていくということ、この営業、企画の部門のときに学びました。

キャリアストーリーの後半ということで、育児休暇を 1 年いただきまして復帰したあと、そのところからのいろいろな学びというのを書いております。時短の勤務を 1 年半ほどやったんですけれども、非常に忙しい、サービス企画をする部門にこの当時にはおりましたので、忙しい業務の中で限られた時間を有効に使うということに非常に試行錯誤しながらやってまいりました。時短であるということをおそらくあまりネガティブには捉えずに、時短であるからこそ、自分でやれることというのをみつけてチームに貢献するということ。あとは、忙しくてみんなすごくピリピリし始めるんですけども、そういうのをどういうふうにもポジティブなマインドでやっていくかみたいなチームづくりというところを非常に意識しながら、この時期には業務をしておりました。それで、時短勤務を終えて 1 年半ぐらいでフルタイムに復帰しまして、そのあとで今の課長職というところにステップアップをいたしました。その中では、育成される側から、今度は自分でチームを見ていく、育成する側というところになりましたので、自分の強みを知って、私らしいリーダーシップをつくっていこうというところを非常に意識しております。個の得意を生かして、それぞれが得意

を生かしながらチームをつくっていくというところを意識し、ただ、やはり実践でやっていくとなかなかそうスムーズにはいかないなというところを、いろいろ壁も感じながら、今リーダーシップをどういうふうに発揮していくかというところを取り組んでおります。

あといくつかこちらにも写真を載せたんですけども、フルタイム復帰したあとで、自分の業務を超えて何か活動ができないかということで、いくつかの活動をいたしております。日本女子経営大学院という、週末にやる女性だけの大学院というのがあるんですけども、そちらに半年ほど通っていろいろなビジネスのことを学んだりとか、あとは国際学会でプレゼンするみたいな機会もいただいて、そういう会社を出たところでのいくつか活動というところもさせていただいています。

こういう取り組みをする中で、NTT ドコモとしてどういう工夫をしているのかというのを簡単に触れさせていただきたいと思います。ドコモでは女性の社員が大体 3 割程度いるんですけども、そのネットワークングを図る、そして個々の持っている能力というのをどんどん上に上げていくための取り組みということで、階層別のプログラムというのを非常に多くやっております。若い世代だと本当に 5 年目ぐらいの社員が担当課長の 15~16 年目ぐらいの社員との交流を図りながら、いろいろキャリアアップの議論を重ねていくですとか、例えば、担当課長だったら担当課長の横同士のつながり、ネットワークングっていうところを取れるような仕掛け、仕組みというのを非常に充実して実施しております。私も先日その取り組みの中で、各組織長、組織をまとめる方々との役員交流会みたいなものがありまして、実際にそういう役員の方々と直接お話をしながら、あまり普段の会議だと聞けないようなお話とかをすごくさせていただいたり、その会がきっかけで、そのあともいろいろ個別にご相談させていただいたりということができるので、すごく縦横のつながりをつくるといういいプログラムをやっております。

いろいろこういうことをやりながら、私がここ数年、非常にこういうこと大事だなと思いつつやっていると 2 つほどご紹介したいと思います。「10 年プランのススメ」と書いているんですけども、今、自分がいる立ち位置から 10 年先ぐらい、自分がどういうことをしていきたいかということイメージしながら、キャリアを描くということが大事だというふうに思っています。その中で、子供がいたりとか、自分の両親がどういうステージになるかということも予測しながら、アクセルを踏める時期とブレーキを踏まなきゃいけない時期というのがやっぱりくると思いますので、そういう時期を予測しながらいろいろ自分の活動をしているというのが、今、取り組んでいることです。

ちょうど先ほどお話しした社外活動みたいなのをやっていた時期は、子供も保育園のもう高学年でおりましたので、まだ小学校前の非常に子供も安定してる時期でしたし、幸い両親も元気なので、自分がもうちょっと時間をつくっていろいろチャレンジしてこうというのができたというのが、この時期です。今後、この先ちょっと考えると、子供の受験とか、もしかしたら親が何か病気になるかもしれないとかそういうことを考えると、例えば、この 1~2 年はちょっとブレーキを踏もうとか、落ち着いてきたらまたアクセルを踏んで、

自分のキャリアアップを目指していこうみたいなことをいろいろ考えております。先々を想像しながらプランを描いていくってということと、何かチャンスが来たらまずは飛び込んでみる、チャレンジしてみるっていうところを心がけてやっております。

あとは、ちょっと毛色の違う話なんですけれども、「外部利用のススメ」ということで、お話しさせていただきたいと思います。自分の時間をつくるためというところが、最初スタートだったんですけれども、週 1~2 回、外部のシッターサービスを利用したりとか、あとは両親や友人にお願いをして子供見てもらうことで、海外出張みたいなのも自分でやっております。ある週の 1 週間というところで、ちょっと細かいですが表に書かせていただいたんですけれども、こんな感じで仕事に集中し、家に帰ったら子供と一緒にいると。なるべく子供の時間を大切にはしたいんですが、やっぱり自分のやりたいことをまず第一に私は考えたいなというふうに思っておりましたので、自分の時間をどういうふうにつくるか、そのつくった時間で社外の活動ですとか、仕事にあてるということを工夫してやってきました。

ただ、子供と一緒にいれる時間ってというのがここ最近、ほんとにだんだん少なくなってきて、平日は朝 30 分から 1 時間ぐらい、夜はお迎えに行ってから寝るまでの 2 時間半ぐらいになってきてしまって、もうちょっと子供との時間をつくって、例えば、ちょっと勉強見てあげるとか、そういうのを今はするべきかなというのがだんだん私の家庭の中では重きが変わってきてます。なので、学童のお迎え時間をちょっと早めるですとか、在宅勤務を使うことで、子供との時間をなるべく今後は取っていこうかなというふうに思っております。さっきお話ししたブレーキを踏む時期というのが、もしかしたら今の時期なのかもしれないなというふうに考えているところであります。

最後まとめですけれども、育児との両立ということで申し上げますと、外部のサービスですとか、すきま時間みたいなものをうまく使って、自分の時間とか、子供との時間というのを豊かな時間にしていくことがポイントになるかなというふうに思っております。また、両立しながらキャリアを歩むヒントとしては、先々を見て、10 年後ぐらいを見て、そのアクセルを踏める時期にしっかりアクセル踏んでくということが重要になるかなというふうに考えております。ご静聴ありがとうございました。

■ 治部氏

どうもありがとうございました。個人的にすごく印象的なのは、たぶん増田さまにとっては当たり前だったかもしれないんですが、時短勤務を終えて 1 年後に課長に昇進されてるってということで、たぶんこれは、おっしゃっていた時間制約を意識しながらもパフォーマンスをきっちり出されていたからかなっていうふうにも思います。だから、つまり能力が高いからかなってということと、あと、たぶん会社側がきちんと時間の中でパフォーマンス出されてることをきちんと評価されてたのかなっていうところが、すごく個人的には印象に残りました。また、恐らくきっと大変なこともあったであろうと思うんですが、だから、

大変なんだとか、だから、難しいんだってことではなくて、持てる資源をどのように活用して、今はアクセルを踏むんだ、今はブレーキを踏むんだということを自己決定してらっしゃるところがすごくすてきだなというふうに思いました。どうもありがとうございました。都知事は、増田さまのお話どのようにお聞きになりましたでしょうか。

■小池知事

非常に鳥の目で自分のことをご覧になったり、それから、ライフステージに応じて子供さんとの対話の時間をどう確保するかとか、工夫してらっしゃるんだなということで感心いたしました。特に 10 年っていうのは 1 つの単位で、私も振り返ってみると 10 年単位、もしくは、干支の 12 年単位ぐらいでいるんなことが世の中も変わってくるし、自分自身も変わるということがありますよね。やはりここでご両親の年齢も書いてあって、そうやって今後のことを予見しながら進めていくっていうのは、だいたい人生って予定が狂うのが人生なんだけれども、でも、そうやって色々ライフステージを考えられているというのは、仕事の面でもたぶんそういう風にやってらっしゃるのかなという思いました。

そして、ここでこういうところがあるんだと思ったのが、日本女子経営大学院っていうのがあるんですね。これどういう組織で、どういうことを学ばれるのかちょっと伺いたいと思います。

■増田氏

2015 年 1 月につくられた組織になりまして、大学院という名前がついているんですが、団体としては文部省認可の大学というよりは、社会人向けにそういう学びを提供しているという組織になります。半年間のプログラムで、週末、各週土曜日で半年間なので全部で 24 回、1 日かけて学びをして、1 日×24 回というので学びをしていくものです。MBA で、いわゆる 2 年間かけて取るようなプログラムを、ちょっとずつ学んで、かいつまんでいくっていうものになりますので、マーケティングですとか、会計、経営戦略みたいな学びもあれば、あと自分をどういうふうにするかみたいな、自分の能力を生かしていくですとか、自分がどういう傾向があって、他者に対してどういうふうにコミュニケーション取っていくともっといいかみたいな、コーチングみたいな要素もあったりするものです。リーダーシップを取るために必要な要素を、広い視点でちょっとずつ学んでいく、そこで興味があったら、またそこをぐっと深く、その後の自己学習とかでやっていくというようなプログラムになっています。

■小池知事 ありがとうございました。一番、経営大学院で学ばれてもっとも印象的だったことは何ですか。

■増田氏

自分を知るところで、ストレングスファインダーというツールを使って自己分析をしていくというのが、非常に私はすごい学びが深かったです。なぜかっていうと、今まで自己分析って、わりと自分で想像しながらやってみるっていうのが非常に多かったんですけども、ツールを使ったり、第三者にコーチに入ってもらうことで、今まで自分が知らなかった面とかをすごく客観的に評価していただいたり、自分としては当然、もう他の人もできるだろうと思ってたことが、いやあなたが特別にできるんですよということを非常に教えていただいたりしました。それがチームメンバーに対しても同じような目線で見ること、この人は、ここがすごく他の人より秀でてるんだっていうことが他の人に対しても言えるようになってきて、それですごくチームとしては、また、お互いのいいところを評価し合える、褒め合えるっていうようなことにつながることで、その学びが一番深く心に残っています。

■治部氏

ありがとうございます。続きましては、増田さま以外の方からも、今のお仕事に関心を持ったきっかけですとか、お仕事の内容などについて伺ってまいりたいと思います。では、最初の成井さまに、今のお仕事に関心を持ったきっかけですとか、お仕事をされていてどんなところに魅力を感じているかといったことについてお話を伺えますでしょうか。

■成井氏

増田さんの素敵なお話を聞いたあとに、非常に話しぶりなんですけれども。私が今、IT 業界というところに興味を持ったきっかけというところでは、最初は学生時代に情報処理の勉強をして、そこでたまたまご縁あって、工学博士に師事することになったというところがあるんですが、ただ、就職するときどうしてもこれがやりたいという感じで選んだわけではありませんでした。

私、増田さんと同じ年なんですけれども、ちょうど非常に就職難の時代に就職をしまして、なかなか募集人員も少ないという中で、割とその中においては、IT 業界って募集の人数が多いというところで、選んだというのが実情です。

実際、入ってみて感じたところは、小さなパソコンとか小さな環境で作ったプログラムというのが、非常に大きな仕組みだったり、システムや社会インフラなどを動かしていく。いろいろな案件に携わらせていただくことで、こんなに大きな仕組みに関われるっていうのはなかなかないことだなというところで、そこに面白さを感じて、長いこと働き続けてこられたのかな、と思います。

最初は、新卒で入社した当初は、技術職でシステムエンジニアをしていたんですけども、13年前ですね。転職しまして。今、日本マイクロソフトで技術営業であったり、現在は営業職として、データを活用して、ビッグデータの分析をするですとか、あるいは AI で

あったりとか、そういったデータを活用するところの担当営業というかたちでやらせていただいています。

非常に新しいテクノロジーを使って、お客さまの課題を解決するのですが、最近ですとクラウドで安価になったので、今までできなかったことを解決できるようになってきており、そういう提案をできるのが面白いところだなと感じています。

■治部氏

成井さんは理系でいらっしゃったんですか。

■成井氏

私、経済学部なので。理系ではないんですけども。その中で、統計学的な要素で工学博士がいらして、そちらでお世話になったというかたちです。

■治部氏

やっぱり、技術がお分かりなっただけで営業をなさると、当然、ソリューション提案というか、そういったものも、かなり付加価値の高いことができるってということなんですよ、きっと。ご自分で言いにくいと思いますけど、そうかなと思って聞いてました。

■成井氏

そうだと思いたいですけど。技術職と営業職、行ったり来たりしてるんですけども、それで、ほかの営業の人だったら話さない部分も自分で話せたりとか、そういった中でお客さまとの信頼関係が作れるというところは、強みになるのかなと思います。

■治部氏

どうもありがとうございました。藤川さまは、今のお仕事に関心をお持ちになったきっかけですとか、実際にやってみて面白いと思うところはどんなところでしょうか。

■藤川氏

成井さんと増田さん、私と同一年で、今すごくびっくりしたんですけども。まさに就職氷河期で、なかなか就職先が決まらないのを経験してます。

私の場合は、新卒でシステムエンジニアに就職をしまして、志望した動機というのは、やっぱり、新しいことが好き。新しいことへのワクワク感というのが、この仕事で満たされるかなというふうに感じたというのがあります。もともと、小学生のころに児童センターのパソコンコーナーで、プログラムみたいな、簡単なコマンドで図を描画する、みたいなことをして遊んでいまして。それがすごく楽しいという思い出があったんですね。

その後は、特にパソコン関係からはちょっと離れていたんですけども、大学のときに

理系に進みまして。授業でプログラミングに再開をして、やっぱり楽しいなと感じるところがあったので、そういう道に進もうかなということで就職をしました。

ずっと開発をして 10 年以上やってきてるんですけども。現在の業務としては、4 年前ぐらいから管理部門に異動してきてまして、社員の人材開発業務に携わっています。主に、社内の研修の企画とか運営と、あとは資格の取得とか自己研鑽の推進の活動をしています。

それが今 4 年目ぐらいで。だんだん板についてきたというか、様子が分かってきたところなんですけれども。今年の 10 月から、AI を使った新規事業の立ち上げのプロジェクトに入ることになりました。これはもともと、研修の企画をしている中で、新技術についての研修というものを、やはりやった方がいいだろうということになって、私がお試しと言いますか、味見という感じで受講しに行ってきたんですね。それで、受講してすぐにそういう案件に入れていただけたということで、すごいチャンスを得たので、まだ様子が分からない中なんですけど、一生懸命やっているというところです。

■ 治部氏

兼務をしながら、お子さん 3 人育てながらっていうところを、もっと聞きたいんですけど、あとの質問に取っておきますね。今、たまたまお話であったんですけど、こちらお三方が同い年なんですよね。4 年違うだけで、就職の状況が全然違ってございまして。2000 年ぐらいですかね。すごく大変でしたよね。多分そのへん影響してるかなというふうに思います。ありがとうございました。

続きましては和田さまからも、今のお仕事にご関心を持ったきっかけ、会社員から起業へということで、かなり転身をされていらっしゃると思いますので、その辺りも含めてお話を伺えますでしょうか。

■ 和田氏

私はですね、5 年前に起業しまして、タスカジという家事代行のマッチングプラットフォームを運営するサービスを立ち上げました。もともと、どうしてそういうサービスを立ち上げようと思ったかという、前職はですね、富士通という会社でシステムエンジニアの仕事をしていて、もともとやりたいと思ってた仕事だったので、毎日充実してですね、楽しくお仕事してたんですね。

ただ、子供が生まれて共働きになって、家事育児の負担がどんどん重くのしかかってくるというような状況になってきました。私、夫とはいろいろよく話し合っていたので、2 人で家事育児の分担っていうのは、ほかのご家庭よりもうまくできてたかなというふうに自負してるんですけども。それでもですね、やっぱり家事の負担って、子供が生まれるとすごいボリュームになってしまって。やりきれなかったんですね。

で、どうしようかなと思ってるときに、やっぱりいろんなチャンスが仕事で来るのに、前だったら飛びつけてたのに、全然飛びつけなくなっている自分に気がついて。あ、この

ままではいけないと。こんなに楽しく仕事ができる環境にいるんだから、もっとチャンスを取りにいけるような気持ちになりたいなと思ってました。

周りを見渡すと、そういう心境に陥ってるのって私だけではなくて。共働きの女性が、ほとんど家事育児を分担して、なかなかチャレンジできない状況だっていうのに気がついて。これは社会課題だと。そう捉えて、何か解決すべきなんじゃないかなと思ってたんです。

ある日、英語の先生にですね、英会話習ってたんですけども、家事の負担が大きすぎて、もう大変でって愚痴を言っていたらですね、海外では、そういう家族のことをサポートしてくれるような人たちは、近所の人とか知り合いの人とかに個人で契約してお願いするんだと。そうすると、業者をお願いするよりもよりリーズナブルに利用できるんだから、和田さんもそういうふうにやってみたらいいんじゃない、ってアドバイスをもらって。

そこで、とあるウェブサイトに行って募集をかけてみたいんですね。そこは不用品とかを交換するようなサイトだったんですけど。誰か手伝ってくれる人いませんかって募集をかけてみたら、すごいたくさんの方が応募してくださって。中にですね、とても素晴らしい方がいて、最終的にお願いすると、もう生活が一変したんですよ。夫も息子もすごい幸せそうになって、こんなに温かい気持ちに家族がなれるんだったら、こういう仕組みをちゃんと作って、誰もが、いざ助けてほしいって思うときには助けてもらえるような環境を作った方がいいんじゃないかと思ったんですね。

特に、私ですね、何故、女性ばかりがこんなふうに家事とか育児の負担を背負わないといけないんだっていうことに対して、とても腹が立ってたんですよ。誰にぶつけていいのか分からないこの怒りをですね、もやもやしてずっと持ってたんですけども、じゃあ、この怒りをエネルギーにして起業しようということで、タスカジというサービスを立ち上げて、リーズナブルに誰でも家事代行を利用できる世界をつくるということで、毎日やっております。

■治部氏

普通というか、私も含めてですけど、いや大変だよ、そうだよって言ってるあいだに子供が大きくなってしまい、そのことを忘れてしまうというのが多くの人だと思うんですけど。それで起業しましたっていう、そこには何があったのか、すごく聞きたいんですけども。そこについて教えてください。

■和田氏

そうですね。多分、先ほど腹が立ってたって言いましたけれども、そのエネルギーがほかの方よりも大きかったんじゃないかなと思うんです。私、子供のころから女の子っぽくないとか、男の子っぽいって言われながら育ってきて。まあ、それは私の個性だと思うんですけども、何で女の子に産まれたからといって女の子っぽくしなきゃいけないんだとか、

そういう、何かこう、世間から当てはめられる女の子像みたいなものに、何となくそこはかとなく、そうなのかなと。私個人はこういう性格なんだから認めてほしい、っていう気持ちを持っていたんですよね。だからこそ、ちょっとほかの方よりも、より、家事が女性の仕事であるっていうことを決められている世界に対して、あれ？ 本当に？と少し早めに気がついたのかなと思っています。

■治部氏

ありがとうございました。これは本当に女性だけがやることなのかっていう疑問を、起業に結びつけたという方。私は、怒りは原稿にぶつけるんですけども。東京都としましては、東京都は行政ですから、これを啓蒙というかたちで、より昇華してやっているんですけども。東京都でも、男性の家事育児参加促進にすごく取り組んでいて。確か、先日、知事も会見でお話しされていましたけれども。取り組みの新しいウェブサイトであるとか、作られていると思いますが。このあたり、少しお話いただけますでしょうか。

■小池知事

確かに、先日の記者会見のときに、ウェブサイトで『パパズ・スタイル』という、このことを開設した旨、今、出ているかと思えますけれども。おいくつなんですかって聞かれて、44歳ですって言って答えるパパ。そういうことなんですけどね。

やはり、夫の家事育児時間が、これはすごく私、びっくりしたのは、すごいと思ったのは、ようやく2時間を超えたっていうことで。2時間1分。これは事件だと思いましたね。それから、妻、奥さんの方が7時間5分、これはもう、こういうのを偏在是正って言うんですよね、本当の意味で。ということは、この2時間1分は何とかせにや、このパイの分け合いじゃないですけど、これは改善しないと、ということから。男性側にこうしなくちゃ駄目でしょ、ああしなくちゃ駄目でしょと言うのではなくて、いろんなヒントをここから受け取ってほしいという意味で。実用的な情報、それから仲間づくりというか、子育ての、ママ友って言うけどパパ友がいてもいいんじゃないかなという感じで。そういう、まさしくこういう方法で後押しをしようということにいたしております。

だから、そうね。皆さんも、お1人で子育てなさっておられるケース、それから2人。だいたい時代によってかなり変わってはきつつあると思えますけど、男性の育児家事参加っていうのは、普通にね、進めるような、そういうヒントをこれからも提供したいと思っています。

■治部氏

ありがとうございました。こういうことを知事が言うてくださることが、どれぐらい我々を勇気づけるかというふうに思うんですけども。続いてはですね、女性が活躍できる職場環境について、皆さまから、いろいろ職場での支援であるか制度のお話も伺ってきたん

ですけれども、職場でこれまで苦勞されてきたことや、もしくは乗り越えたときにこんなことが役に立ったということをお伺いしていきたいと思ひます。そうしましたら、今度は藤川様から伺ってもよろしいですか。

■藤川氏

女性が活躍できる職場環境ということなんですけれども。弊社の場合は、今年度からテレワーク勤務制度が導入されました。これは東京都さんの実証実験で支援を頂いたおかげで、検討から導入まで半年という、すごいスピード感で導入することができて、本当にありがとうございました。大変お世話になっております。

これを導入する前から、私は、昨年の秋からトライアルとして、週に1度、在宅勤務を実施してきました。週1度で1年以上続けてきて、いろいろ思っていることがあるので、そちらをお話ししたいと思ひます。

テレワーク制度は、一般的には勤務時間の削減とか、そういう生産性向上みたいなところにスポットが当たるイメージを持っているんですけれども、仕事と子育ての両立におけるテレワークというのは、生産性向上もあるんですけれども、それ以外の部分で、かなりメリットが大きいなというのを、この1年で感じています。それは何なのかというと、私自身の意識改革というのがすごく大きくありました。

私は、上の子がもう13歳なので、10年以上、仕事と子育ての両立をしてきて、ずっとバタバタとした生活を送ってきて、時間に追われるような生活をずっとしてきているんですけれども、テレワークをしてみて初めて、自分自身がゆとりを持つということに目線がいききました。

テレワークを始めてしばらくは、在宅なので、昼休みに買い出しに行ったりとか家事をやったりとか、やっぱり詰め込んでバタバタやっていたんですけれども、しばらく経つと、ちょっとゆっくりしてもいいかな、という瞬間が出たりして、昼休みにちょっとのんびりしたり。当たり前なんですけど、休憩時間なので。家事をできるけれども、自分の時間を持とうというような感じで、ゆとりを持つということができるようになったというのが、本当に大きな変化で、これがあったからこそ、10月から新しいプロジェクトにチャレンジするっていう気持ちを持てたのかなというふうに思っています。

あともう1つ、大きなこととして、やっぱり、子供たちが非常に安心しているということがあります。日中、保育園に行っていたり、学校に行っているんで、親が日中、在宅であろうがなかろうが、あまり重要ではないとずっと思ってきたんですけれども、在宅勤務を始めてから、上の子供に、ママが家にいるとすごく安心するということを言われまして。ただ家にいるだけなんですけども、いるっていう事実がすごく安心するということ言われて、ああ、今まで10年間申し訳なかったなと、すごく申し訳なかったなという気持ちを持ったのと、あとは、家に週1回はいるんだよということで、すごく喜んでる子供たちを見て、ああ、本当によかったなと感じています。

なので、こういう面についてもうちよっといろんな人に知っていただいて、もっと多くの方にテレワークをやっていたらいいなと感じています。

■治部氏

本当にテレワークに関していろいろなことが議論されていますけれども、とても腹に落ちるというか、身につまされるお話だったなというふうに思います。特に藤川様のご勤務先では、都の支援でテレワークを導入されているということが、すごく今日のお話をつながってくるなというふうにも思いました。

■藤川氏

導入のコンサルティングを無料で都にやっていただけるということで、そこで勢いがついて、4月からの導入ができたということで。

■治部氏

よかったですよね。知事もテレワークを本当に積極的に推進されてますけれども、今のお話を伺っていかがでしょうか。

■小池知事

都の支援によって後押しされたという成功例を伺って、ええ、これは後押しのし甲斐があったなというふうに思います。テレワークは、一昨年始めた試行の部分のときは、企業で30人以上の規模の企業、参加してくださったのが6.89パーセント。で、それから、その次の年っていうか、今年ですわね。今年はですね、何と、19パーセントまで跳ね上がってるんです。それと同時に、今後導入する予定があるかという質問にはですね、4割が、やってみたいという返答だったんですね。ですから、機運は十分高まっているので。あとは、どうやって具体的に何をすればいいのかっていうのを、きちんとお伝えすることによって、その4割が、もしくはひょっとして5割、6割。面白いもので、ご承知のように、マーケティングもそうですけれども、ある一定の数字までいくと、あとはスッと大きく伸びるポイントがあるわけですよね。ですから、そこまで持っていく努力を、できるだけ、特に来年あたりにやっておかないと、2020年にはちょっと間に合わないなと。でも、確実に伸びているし、それがまた新しいビジネスにもつながるし、そして何よりも、働き方改革。これぞ、ザ・働き方改革の一番早い方法になるのじゃないかなと思います。いや、よかったです今日、それ伺って。

■治部氏

都では、実は、ワークライフバランスではなくて、ライフワークバランスというふうに言ってるわけですが、まさにね、藤川様のご経験ってライフワークのインテグレーションだ

などというふうに、伺っていて思いました。次に、和田様にも女性が活躍できる職場環境につきまして、もしかしたら、経営者としてっていう視点で伺うのがいいのかな、とも思ったりするんですが。会社員時代のことも、どちらでもいいんですけども。ぜひ、伺えますでしょうか。

■和田氏

うちの会社はですね、女性の比率が非常に高い組織です。それですね、最初はベンチャーということで、新しく一から職場の環境を整えられるということで、リモートワークの環境を整えていったんですね。ただ、やっぱりベンチャーですので、役割分担が明確に決まっていなくて、仕事を拾い合ってお互いにやっていくとか、みんなでモチベーション高くですね、難しい問題を乗り越えていく、みたいなシーンがあるときに、やっぱりこう、ちょっと離れた場所にいると、情報はちゃんと共有できていても、なかなか熱い思いみたいなものが共有されづらいなっていう経験を、創業当初はしておりました。

ですので、ちょっと経営者目線の話をしてますと、やっぱり、みんな一度オフィスに集まって仕事をするという環境を、1回やってみた方がいいんじゃないかということで、1回オフィスに集まって。その中で、もし必要であれば、事前の申請をもって、家でテレワークするとか、そういう運用を始めております。やっぱり、会社の組織の成熟度合いとか、それから担当する業務によって、導入のレベルっていろいろ変わってくるんだなというふうに、自分の体験からは感じております。

■治部氏

企業もライフステージがあって、その状況によって働き方の最適化って違うんだなということが分かって、すごく面白いなというふうに思いました。続いて、成井様からも、女性が活躍できる職場環境について。特に職場に関わらず、保育園ですとかそういった環境整備のことを、ちょっとお話しいただけたらと思うんですけども、いかがでしょう。

■成井氏

私の職場は幸い、リモートワークという点では、出産以前からもう定着していて、みんなで集まろうって決めないかぎり、全員同じ場所で働くのではなく各自の判断で、どこで働いてもよいという環境でした。そういう意味では非常に恵まれていて、いつでもどこでも、家からでも外からでも、仕事ができるというところはあったんですけども、一方で、親も地方でいないというような中で、夫と2人で子供をうまく育てながらやっていかなきゃいけないというところで、保育園が非常にやっぱり大事ななというところがありました。特に、私、営業職で、お客さまは地方にもいらっしゃって出張にも行かなきゃいけないしという中で、どう時間をやりくりするかというのが課題でした。

産後、最初に預けた保育園は、カタログスペック上は21時まで子供を預かれますという

ふうになってたんですけども。実際に通わせてみると、18時半にはほぼ全員お迎えが来ていて、うちの子は常に最後、みたいな感じになってしまっていて。毎日お迎えが一番遅いと、やっぱり子供も不安になるのか、不安定になってギャーギャー言ってしまうというようなことも多くて、いかに早く仕事を切り上げて迎えに行くかっていうことに、すごく注力せざるを得ない1年間だったんですね。

ちょっとそこの苦労があったのと、あとは、その園自体も、実は今年の3月で閉園になってしまうということがありまして。なので、昨年、ことしの4月からの新しい保育園の転園活動をしまして、その際には、ちゃんと夜まで預かってもらえるのかとか、カタログ上は遅くまでって書いてあるけれども、実際通ってる人に話を聞いたら話が違うんじゃないか、とかですね。その辺りを、個人的に確認をして、そのうえで希望する園というのを探し、そこに申し込みをして、幸い、入ることができました。

そうしますと、今は、子供も、出張に行くときは8時半まで行ってもらったりとかですね。そんなかたちで、私も出張にも行ける、今までほかの人に、自分がやるべき仕事なんだけれどもお願いせざるを得なくて、ちょっと心苦しい思いであったり、あとは仕事自身をちょっと楽しめない状態にあったんですけども、それが一気に解消して、かなり積極的に仕事に自分から関わって仕事に楽しむということができるようになったというのが、非常に大きいなというふうに思っています。

あとは、うちは夫も職場が家から遠くて、1時間半ぐらいかかるんですけども。なので、今まで、お迎えを夫に期待するというのが難しかったんですけど、8時半だったら夫でも行けるので、ときどき迎えに行ってもらおうということで、私の育児負担も、それでかなり改善したかなというところです。

■治部氏

ありがとうございます。他人事じゃなかったの、つい聞いていて、次に自分が何を話しか忘れちゃったんですけど。やはり、保育がただ箱としてあるのではなくて、そこで子供がどういうふうに過ごしてるかっていうことって、すごく仕事にも影響すると思うんですね。いい保育園に入れて、そこで子供が安心して過ごしていると、仕事にやっぱり集中できるということはすごくあるな、というふうに思います。

この点について、私もずっと都内で子育てしてきました、非常に都内の保育園にお世話になってきたんですけども。ここ最近、本当にすごく保育園を増やしていらっしゃるということを、私も新聞等々で読んでるんですけども。知事にそのあたりのことを伺ってもよろしいでしょうか。

■小池知事

待機児童対策っていうのはね、その待機児童の数だけ、女性の力が十分に生かされていないということだというふうに理解しております。そのことから、おとし、知事に就任し

て真っ先に緊急対策って言うてですね、この待機児童対策に乗り出しました。区市町村が担当する部分が多いんですけども、その後押しを強力にするということで。

数値がもう出ておりまして、この待機児童の数が去年に比べて、昨年、3,000 人以上減少しまして、3,172 名の減少で、5,414 名。まだ 5,000 人が切れていないというか。でも、これって、より環境がよくなると、子育てと仕事のある意味、いい正の循環に入ってきていればいいんじゃないかというふうに思います。

それで、児童人口の増加と、女性の就業率の上昇で、これからも需要増加が見込めますので。2019 年度末ですね、来年と再来年 3 月になりますね、3 年間で 6 万人分の保育サービスを利用する児童数を増加させるということで、やっております。

結構、予算もかけていまして。1,576 億円というのが今年度。ということからですね、ここは、働く女性をバックアップすることが、都にとっても活力につながると。それから、やはり女性にとっての自己実現と、それから子育てをしたいという、もう当然の、女性としての喜びといいましようか、そういったこともね、家族が持っていてというようなこともありますけれども。そういう、普通の国ならどこでもやってるようなことを、この東京で実現したいという思いであります。

まあ、いろいろまだ不十分なところもあるかと思えますけれども。でも、さっきのライフステージによってのいろんな予定項も、出産か、もしくは子育てか仕事かっていう、選択肢がその A か B かではね、なかなか予定も立てられないといいましようか、ある意味、逆にチョイスがなければ予定が立つというのか。まあ、そのあたりをできるだけ選択肢を広げて、働き方も多様ならば子育ても多様、そして、夢が実現できるその方法が、少しでも自分に合った方法が選べるということ、ぜひ実現したいと思っております。

■治部氏

私の手元にはですね、少し詳しい数字があるんですけど。これ、多分、知事はあえておっしゃらなかったと思うんですが、予算のですね、1,576 億円っていうのは、知事ご就任前と比べると、598 億円も増やしているということなんですね。これってやっぱり、待機児童がいるということは、それだけ女性の活躍が阻害されてる、働きたいけれども働けないっていうことの、多分、痛みをすごくお分かりになってるのかなっていうふうに思います。それによって、やはり予算がないと保育士さん雇えませんし、箱も造れないので、それだけ増やしているところに、そういう気持ちが分かってくれて、私は個人的に嬉しいなっていうところがありますね。ちょっと補足させていただきます。

続きましては、この懇話会で一番盛り上がる、皆さんのライフワークバランスの、一体皆さん、1 日どう使っているんですかっていうところを伺ってまいりたいと思います。こちらはですね、成井様のプレゼンテーションからお願いできますでしょうか。

■成井氏

よろしくお願いします。前の会のものを拝見させていただいたら、皆さん、睡眠時間がすごく短い方が多くて。ちょっと、どうかたちで出したらいいかドキドキしていたんですけども。うち、割と子供も就寝が遅くて、朝行くのは遅いんですけど、お迎えが遅い、というパターンかなと思うんですけども。

大体、私は 7 時に起きて、子供を起こす前に自分の身支度だったり、家事だったり、朝食作って、朝できる掃除だったりとか、そういうことをしてしまっ。で、そのあとに子供を 8 時前ぐらいに起こして、そこから子供にご飯を食べさせ、子供の身支度をさせてっていう、保育園に送迎するための準備を、大体、私が 1 人でやり。そして、その後、送り届けること自体は夫にやってもらおうと。で、私は大体、仕事にそのまま出かけて、客先であったり社内の会議であったりというところで。これが、場合によっては、私が朝、家出テレワークでいっていうときもあるので、そういうときは自分で保育園に連れて行って、そのまま自宅からテレワークに入るというやり方でやっています。

大体、お迎えに行くのが 7 時半ないしは 8 時半のあいだなんですけれども、保育園にお迎えに行って。子供と一緒に買い物をして、帰宅して、ご飯、片付け終わると、大体 9 時半。で、そこから子供と一緒に入浴して、寝かしつけ。今、3 歳になったところなんですけど、寝るのが 22 時半から 23 時ぐらいになっちゃうので。ちょっと遅いなとかたちではあるんですけども、ここまでずっとバタバタしてきて、寝てくれたあとに夫が帰ってきて。そのあいだに、洗っておいた洗濯物を夫に干してもらい、私は仕事に戻る、みたいなかたちで。で、寝るまでのあいだ、仕事の、夕方見れてないあいだにいろんなメールとかが来ているので、それをチェックしながら、仕事をしたり、あとは家事をしたり、あるいは読書とか自由な時間を少し寝る前に取ったり、というようなかたちで、大体 1 時半ぐらいには寝たいなという感じで過ごしています。

■治部氏

この 23 時半から 1 時半のところは緑ですけども、実はちょっとオレンジもあり、みたいな感じなんですね。

■成井氏

そうですね。あと、子供と一緒にご飯を食べてるときも、メール見ながらっていうときもあるんですけど。それはまあ、ケースバイケースで。子供に集中するときは子供に集中しますし。ちょっと急ぎの仕事があるなっていうのが分かっているときは、ちょこちょこメール見ながら、とかですね。

■治部氏

ありがとうございます。続いて、藤川様はいかがでしょう。今、写真も出てきました。

■藤川氏

私の場合、出社のパターンとテレワークのパターンで 2 パターン、ちょっと提出させていただけました。私もかなり寝てるんですけど、就寝が長いんですけども。大体、出社のパターンですと 6 時半ぐらいから起きて、7 時半には出勤、通勤に行くという感じで。朝は、そうですね。子供が 3 人三様なんですけど、みんなにご飯食べてもらって、身支度させてという感じですね。

テレワークのパターンと差分があるところということでお話をすると、これはうちの AI のチームですね。AI のチームに入ってから、和田さんのお話でもあったんですけど、業務をみんなで拾い合うというか、まだどうプロジェクトが進むのか、という面も出てきたりして。なかなかテレワークが取れなくなっている状況に、今、なっています。長男からは、今月やっていないじゃないかと。毎週、カレンダーに書くんですけど、この日がテレワークって、月単位で週に 1 回書くんですけど、今月はそれを、書いては消し、書いては消しをやっていたら、今月 1 回も取ってないじゃないか、みたいな話をされたんですけど。まあ、今ちょっと頑張りどきかなと思って、我慢をしてもらっているというのがこのチームですね。

で、業務があって、大体、私はもう残業などは一切せずに帰宅を、基本はしています。なので、6 時半にはお迎えに行っています。ここから夕飯とかバタバタ食べさせて、8 時から 9 時半ぐらいまで、テレビを一緒に見たり、宿題見たり、今日何があったの？ とかお話をしたりっていうことをしています。で、結構、9 時半ぐらいになると、長男と次男は眠くなって寝てしまうので、まあ、それで先に寝てもらって。で、長女が習い事を結構遅い時間までやっていたりするので、9 時過ぎに長女が帰ってきて、そこからまた長女とお喋りタイムと、夜食を出したりというようなことをして。で、そのあとは自分も読書したり、ちょっと勉強したりっていう時間を取ってから、就寝というかたちが出社のパターンです。

テレワークのパターンでは、まず違うのは、身支度したらもうすぐ、7 時半から業務開始ができるというところで。前倒して業務をすることで、業務終了が早くなるというところが、すごく大きいです。以前だと、昼食の 12~1 時でまた買い出し行ったりとかですね、晩御飯の仕込みをしたりとかしてたときもあったんですけども。最近はちょっとのんびりするようになっています。テレワークのときは早いので、4 時とか 4 時半ぐらいに保育園にお迎えに行きます。このおかげで、習い事に連れていけるということが、すごくよいです。平日に習い事って、なかなか入れられない、土日に固まってしまうので、それも結構。土日を削られちゃうっていうのがあるんですけど。テレワークのときは習い事に連れていける。で、習い事行ってもらってるあいだに、1 人でちょっとランニングとかをして息抜きをしているということも、最近はちょっと増えてきました。

で、これが習い事のお迎えで。サッカーの帰りで、長女もちょっと合流したというかたちですね。習い事のお迎えのあとに、商店街で買い食いしたり、晩御飯のおかずを買ったりっていうことができるので。ここもコミュニケーションになるので。テレワークの日は、やっぱりみんなが楽しみにしているという状況です。

■治部氏

テレワークのメリットがこんなにビビッドに伝わってくるお話って、すごく珍しいですよ。ありがとうございます。そうしましたら、増田様、お願いします。

■増田氏

私もテレワークしたいなと思いつつ、今、聞いてました。私は基本的には出社しながらということなので、そのスケジュールですね。朝は 6 時半から、私も朝が非常に苦手で、まあ 6 時半に起きれたらいいけど、大体 7 時に子供と一緒に起きるっていう感じになってます。子供が学校に行くのが 7 時半ぐらいの時間になりますので、まず、そこまで 2 人で、急げ急げって言いながら朝ごはん食べさせて、小学校に出すというところが、まず朝の過ごし方です。

子供を出したあとで、8 時ぐらいに私は家を出て、9 時か、遅いと 9 時半から業務開始になります。ちょっと、さっきのお話にもあったんですけど、仕事優先でずっとやってきたっていうのもあって、今は大体 7 時ぐらい、残業 1 時間か 1 時間半ぐらいして、7 時に会社を出るっていうのが、自分の中の、周りも含めて、今、ペースになっています。これをだんだんもうちょっと早くして、6 時とか 5 時半ぐらいに帰れるように、朝の時間も早くしようかなと思っているのが、今チャレンジしているところです。

今は 7 時に会社を出まして、お迎えに 8 時ぐらいに、学童に行くというふうになっています。子供が行っている学童は、7 時を過ぎると夕食を食べさせてくれるところなので、子供は基本的には夕食は学童で済ませていて、8 時にお迎えに行ったときには、もうご飯が終わっているという状態になっています。

そのあと、家に帰ってきて、私は夕食を取るんですけども、子供も昔は学童で夕食を取るのもう満足していたんですけど、一緒にご飯を全然食べられてないのが、子供にとってはあまり精神状態よくなってきたなという感じがあったので、簡単な、本当に簡単なんですけど、何か一緒に食べようねって言って、子供も 9 時前ですけど一緒に食べています。

そこから宿題をやって、お風呂に入れて、10 時か 10 時半ぐらいに寝かせられたらいいかなというペースになってます。そのあと、一緒に寝落ちすることも結構多いんですけども、私が起きられたときは、家事洗濯の残ってるのをやったりとか、食器を洗ったりとか、ちょっとテレビ見てのんびりしたりっていうことをしながら、夜 11 時ぐらいには寝ております。

■治部氏

ありがとうございます。子供とどう食べるかって、結構大事で。私も、下の子が小さいときに、保育園から帰ってくるとお腹ペコペコでわあわあ泣くので、抱っこしながらご飯

を作って、とりあえずシラスだけかけて、はい、みたいな。シラスが神のように思えたころとかを思い出しました。ありがとうございました。和田様はいかがでしょう。

■和田氏

私も比較的、就寝が長めになっておりますが。私はですね、7時ぐらいに毎日起床してます。そこから8時ぐらいまでのあいだに、身支度だとか、あと、子供の小学校の送り出しもあるので、送り出しの準備をしたりしてます。そのあとですね、やっぱりベンチャーなので、会社始まるのゆっくりで、10時から始業になりますので。それまでのあいだに、ネットでいろいろ情報収集したりだとか、SNSで情報チェックしたりとか。そういうような作業をして出勤してます。

家と会社の距離が比較的近いので、30分ぐらいで行ける場所に引っ越したりとかして、なるべく出勤時間は少なくなるようなかたちで過ごしてます。子供が保育園に通ってたときは、保育園の隣に住んだりとか、比較的、家を固定化せずに賃貸で、そのときのライフスタイルに合った家を借りるっていうスタイルを取ってます。

で、会社に行ってメールチェックだとか、取材対応とか。あと、やっぱり、何故起業したのかっていうところだとかについて、講演の依頼を頂いたりもするので、こういった大学に行ったりだとか、いろんな場所で講演させていただいたりもしております。あと、取引先との打ち合わせとか社内打ち合わせも結構多くて。打ち合わせがほとんどかな、というような感じですね。

帰宅は18時半ぐらいなんですけれども、そこから夕食の準備に取り掛かります。ここはですね、タスカジ、実は私もタスカジユーザーでして、ユーザーランキングを出すと結構上位の方にいるぐらいのヘビーユーザーなんですけども。タスカジさんという、タスカジに登録するハウスキーパーさんなんですけど、タスカジさんのサポートを私も得ておまして。作り置きというですね、3時間でお料理を1週間分ぐらい作り置きしてくれるサービスがあるんですね。その恩恵に預かっておまして。30分ぐらいで、それを電子レンジでチンして温めたり、ちょっとしたお味噌汁だけ追加して作ったりとかして、準備に取り掛かっています。

で、ゆっくり夕食を取ったあと、お風呂に入ったりして。子供は9時に就寝しますので、そのあとは自由時間というかたちですね。そのとき、忙しければ仕事をしたりもしますが、できればストレス解消だとか、いろいろ知見を広げるような活動にしたいなと思っているので、読書とか、あとテレビ観たりとかいうようなことをしてます。

■治部氏

皆さまのライフワークバランスをご覧になって、知事、いかがでしょうか。ご感想等々。前回、前々回との比較もあると思うんですけど。

■小池知事

まあ、比較はそれぞれね、やはり業界によって。建設業の方々は朝 5 時起きとかっていうのが多くて、もう本当にびっくりしましたけれども。皆さんの業界は、それなりというか、普通の時間帯なのでしょうか。でも、それぞれ皆さん、工夫してらっしゃって。やはり、お子さんの子育ての部分でね、非常にご苦勞もあるんだなということが、よく分かります。

一方で、テレワーク。やっぱりすごいですね。お宅にいてることによって、いろいろとかえって集中できたりする部分と、それから、でもついでに家事もやっちゃおうか、みたいなところもあると思いますけれど。でも、お母さんがずっとおられるということが、それだけで子供さんの安心につながってるというのも、それは 1 つ、プラスのことなんだなと感じました。ぜひ、テレワークもね、これからも皆さん、導入していただければと思います。

■治部氏

あと、和田さんにぜひちょっと伺ってみたいのが、タスカジさんで、皆さんどう業務を依頼する方が多いかとかって、ちょっと伺えますでしょうか。

■和田氏

一番人気は、やっぱりお掃除ですね。ただ、創業当初は掃除の利用が多かったんですけども、今はそれと並ぶぐらいですね、作り置きというサービスが人気です。作り置きは 3 時間で作り置きしてもらえますけれども、やっぱり料理って毎日のことだし、ちょっと手を抜くと命に関わるというか、生命維持にはとても大切な業務で。結構、負担が高いということで、作り置きをしてもらって、その時間を子供との時間に充てたいとかっていうかたちで、皆さん、ご活用いただいているみたいです。

■治部氏

タスカジさんご自身は、もともと主婦だった方とかなんでしょうか。

■和田氏

はい。もともとですね、専業主婦というかたちで、家事をずっと 10 年とかやってらっしゃった、すごいキャリアの方もたくさんいらっしゃいますし。あと、料理に関して言うと、栄養士さんとか調理師さんといった、それを専門にずっとお仕事されてきた方もたくさん登録されています。大体半々ぐらいという感じですね。

■治部氏

タスカジさんの会社自体が、新しいかたちでの女性の活躍を創出して、雇用の創出をされてるっていうところで、すごく興味深いですね。

■和田氏

ありがとうございます。

■治部氏

はい、ありがとうございました。そうしましたら、まだまだお話ししたいところではあるんですけども。そろそろまとめに入りたいと思います。

■治部氏

最後に皆さまから、これから情報通信業界を目指す方に対するメッセージですとか、せつかなので、なかなか知事をこのようにじかでお話する機会って普通は、私もないんですけど、ないと思うので、ここお聞きしてみたいこととか何かありましたら、順番に一言ずつ皆さまへのメッセージ、もしくは、知事にちょっとぜひこれだけっていうのがあれば伺って締めたいと思いますがいかがでしょうか。どなたからでも構いませんけれども、どうですか、じゃあ、成井さんからいかがでしょうか。

■成井氏

先ほど保育園だったりとか、子育て支援っていうところに都としてかなり後押ししていただいているところで、かなりよかったなというふうに思っているんですけども。その中でやはり多様な働き方に対応していくっていうところで、さまざまな保育形態っていうのもあっていいのかなと思いますし、あるいは、男性の育児参加の時間をもっと増やしていくための施策が先ほどもありましたけども、そういったところも今後どんどん展開いただく予定があるのかなというふうに思って期待をしております。もしご計画ありましたら、ぜひ教えていただけるとありがたいです。

■小池知事

私は、ぜひこの女性の力をそのままずめてしまうのはそもそももったいないと思ってますので、その意味で、子育てと、それから、仕事が両立できるようないろいろなバックアップはしていく、それについては引き続き行っていきたいと思っています。あまり猫の目行政でくるくる変えるとみんなの都合がつかなくなっちゃうので、できるだけここは徹底してやっていきたいなと思っています。それから、男性の育児とか家事とか、例えば、今日は育児が妻の代わりにありますからなんて言って有給を取ろうとしたら、もう出世は諦めるのかとかそういうプレッシャーが夫側にかかったりとか。だから、いろんな企業の皆さんといろいろな協定を結んだりしておりますけれども、そういう働き方を積極的に男性女性問わず進めていく企業に対して、よく頑張りました、よくできました賞じゃないですけども、都としてそれを奨励していくような。やっぱり企業の風土もそれぞれ、外資とそうじゃないところとまた違うでしょうけれども、でもやはり働く職場の空気っていうのが結構物を言う国だと思いますので、そこから変えるっていうことも必要だと思ってます。

■治部氏

じゃあ、和田様いかがですか。

■和田氏

ありがとうございます。質問とかではないんですけども、私がタスカジというサービスを立ち上げた理由としては、仕事でもっとチャレンジしたいと思っている方たちが、なかなか家事が足かせになってできないという現状を変えたいというのが 1 つの側面であり、もう 1 つは、主婦としてずっとキャリアを積んできたにも関わらず、それを生かして活躍する場所がないという課題に対して場所を提供したいなと思って、その二者間がうまくマッチングできればもっといい世界ができるんじゃないかなと思ったんです。実際タスカジを利用していただいている方からのコメントとしても、タスカジとか家事代行の存在が自分のキャリアでチャレンジしようという気持ちを生み出したんだとか、昇進のオファーをもらってたのをずっと断り続けてたんだけど、タスカジさんの後押しがあったから今度受けようっていう気持ちに変わりましたっていうコメントをいただくことがすごく多くて、存在してるだけで皆さんの勇気になっていけたらなというふうに思ってます。

ですので、東京都としてもこういうサービスがあるんだよっていうこととか、うちのサービスじゃなくてもいいので、家事代行サービスを利用するライフスタイルでこういうことがあって、こんなふうに仕事のチャレンジにつながっていくんだよ、みたいなメッセージ発信をしていただいたりですか。あと、先ほどの男性の家事・育児参画の取り組みですとか、ぜひ積極的にしていただけたら、もっと精神的に助かる方が増えていくんじゃないかなと思ってます。どうぞよろしくお願いします。

■治部氏

増田様はいかがでしょう。

■増田氏

いろんな話を伺いながら、子供を育てるもそうなんですけど、いろいろ自分のところに関わってくれるキッズシッターであったり、家事代行で来てくれる人とかも含めて、なんかチームで家族を育てていくみたいな世界がもっと広がったらいんじゃないのかなっていうふうにすごい思いました。さっき知事がおっしゃっていた育休取りたいんだけどっていうところのその雰囲気も、結局その会社の周りに、例えば、半径 5 メートル、10 メートルにいる人たちが理解をして支えてくれればその空気感も全然違ったものになりますし、なんかそういうところをもっとどんどん、今は仕組みもいっぱいありますので後押ししていければいいなというふうに思っております。

何か、さっきおっしゃっていた選択肢をいっぱい与えるっていうところもすごくキーワ

ードだなと思っていて、私自身がキッズシッターサービス、私はすごくいいサービスだと思って結構活用してるんですけど、人によっては、いや子供を知らない人に預けるのはちょっととかそういうのもあったりするがあるので、なんかそういう選択肢を、その人々のライフスタイルに合った選択肢というのがもっと充実したもので、手に届くところにあるっていうのをすごく推進をしていただけると、みんなにとってすごく生きやすい社会っていうのにつながるのかなと思いました。

■ 治部氏

ありがとうございます。藤川様いかがでしょうか。

■ 藤川氏

私は、今日、もうテレワークの件、直接知事にお礼を申し上げることができてほんとにありがとうございます。改めて、今日テレワークについての、私の生活についてちょっと話をさせていただいたら、やっぱりこの 1 年でだいぶ我が家は幸せになったなということを改めて実感しました。他の皆さんのお話もすごく学ぶところが多くて、いろんな気づきがあって非常にためになりました。タスカジは絶対使おうと思いました。家事とかもママ友とかとお話ししても思うんですけど、頑張ればできちゃうっていうぎりぎりのラインで、子供がどんどん大きくなってきて面倒見る内容も変わっていくんですけど、そんな中で実際の負担は増えているけれども、今までやってきているから、家事も今までどおりできるだろうっていうことでやってきてる人がたぶん多いだろうと。すごく限界までできてきつくなったら、そういうサービスに目がいくのかなというふうになんとか実感として思っています。

かく言う私も、そういうサービスは、まだ私には、私はそんなに大変じゃないっていうふうに感じていて、知ってはいて、区のサービスでも同じようなものもあるのも知ってはいるんですけども、周りで使っている方も知ってるんですけども、私はまだ違う、大丈夫だ、もっと大変な人がいるっていうふうな考え方があったなっていうのをすごく気づきました。なので、テレワークで幸せになったっていう実感があるので、もうちょっとそういう介護のサービスっていうものに目を向けて、みんな一度は使ってみたらいいんじゃないかなと感じました。

■ 治部氏

今日は、女性が輝く TOKYO 懇話会ということで、情報通信業界編でありまして、もちろんお話も伺ったんですけど、皆さんすごく視野が広くていらっしゃるなというふうに思いました。ご自身の働き方から考えを起こして、テレワークと行政の関係性であるとか、家事の外注、つまりライフスタイルを変えるということ、そういったことにすごく幅広くお話を伺ってとても面白かったですという素人っぽいんですけど、たぶんご覧になって

る方もすごく面白かったんじゃないかなっていうふうに思います。ぜひここで今日聞いたことを、私は書くのが仕事なので書くことであるとか、自分が話すところでお伝えしていきたいなというふうに思いました。今日は、年末のお忙しいところお集まりいただきましてどうもありがとうございました。それでは、最後に知事にごあいさつをいただきたいと
思います。

■小池知事

最後の締めではあるんですが、ちょっと皆さんに、私、聞いてみたいんですけど、おせちってどうされるの？ タスカジさん？というのは、この季節のもので、数の子とか黒豆とか、なんかちょっと年末の売れ筋が違ってきてるっていうのをちらっと聞いたのね。それは、もう今どき黒豆を一昼夜つけて、戻して、そこから煮てという人はたぶんいないですよ。そして、数の子とか、もう定番があるけれども、だから、セットでもう売れちゃう。予約した、したの？

■発言

していません。

■小池知事

してないですか。どうするんですか、それじゃあ。

■増田氏

私の両親と、この 15 年ぐらい、いつも年末年始はホテルに泊まって、母親も楽をしたいからそうやってリラックスしましょうみたいな文化になっていて、1 年だけそれなかった年は、おせちは注文してしまいました。

■成井氏

去年は注文したんですけども、ことしは実家に帰る予定なので親任せでお願いしたいと思っています。

■小池知事

治部さんどうされるの？

■治部氏

スーパーでちょっと買ってくるぐらい。でも、ほんとに祖母の世代はお豆を水からやりましたし、餅もついてたんですよ。で、今やうちも、両親も、母も作らなくなっちゃったので、海外旅行に 2 人で行っちゃうようになりました。

■小池知事

という具合に、ライフスタイルはもう時代によって大きく変わって、それによって売れ筋も変わって、売り方も変わってという、そういう、変化、変化が続くんだろうなというふうに思います。それでも、そういう中で、またおせち 1 つとってみても、働く女性のおせちですとか、それまた考えることだってできないこともないし、そのようにしていろいろと女性の皆さんがビジネスの場で提案されて、それがタスカジさんのように主婦の方で何時間か自分の時間とスキルを提供することによって収入が得られると。そして、その分、外で働く女性が助かるというようなことで、やはりそれぞれがうまく社会が循環、得意分野をお互いに提供し合うことによって、経済も、今も人手不足だって言いますがけれども、その辺りを補完って言ったらあれですけども、ちゃんとそれで世の中回れるような仕組みってというのが必然として出来上がってくるんじゃないのかなというふうに思います。

特に皆さん、情報通信業界これからますます伸びる分野だと思いますし、その意味で、その分野で女性が活躍するチャンスもいっぱいあると思うので、子育てしながらもしっかりと仕事もできるといういい例を、ぎりぎりまでとにかく頑張って、頑張ってということじゃなくて、自分自身のお勉強もしないとこの分野って日進月歩変わりますし、ひょっとして、場合によって AI であなたいなくなる時代が来ますよって言われちゃうかもしれないし、皆さんの分野でのお話をいきいきとお伝えいただいたと思っております。ご参加いただきまして誠にありがとうございました。そして、皆さん、どうぞおせちは別にしても、よいお年をお迎えください。ありがとうございました。

■司会

ありがとうございました。これもちまして、女性が輝く TOKYO 懇話会情報通信業編を終了いたします。

（終了）